希望ひらく政治へ

みんなの力で

「議員の仕事は、住民のくらしと命、そしてふるさとを守ること」

政治には、人々のくらしを守るかけがえのない役割がある。政治には、人の命がかかっている―これが私の政治信条です。

「国保料が高くて払えない」「借金の返済に困っている」「明日のくらしが見えない」と、市民から寄せられる生活相談。議員の仕事は、住民の声を政治に生かし、くらしと命、ふるさとを守ることです。2005年の市議選で初めて政治の舞台に押し上げていただいてから14年。市民と共に声をあげ、道理を尽くせば政治は必ず動く―この思いを確信に、議員としての活動に取り組んでいます。

「子ども」を通して政治や社会を見る

子どもの成長は、子育てする親にとって一番の喜びです。けれども「毎日忙しく、子どもと向き合う時間がない」、「靴や洋服代、食費に貯蓄、住宅ローンもあって毎日のやりくりに思いのほか苦労する」との声が聞こえてきます。

子育てしやすい社会をつくるために、政治が果たすべき責任はとても大きいと実感しています。「子どもの医療費は中学校卒業まで無料に」、「保育料の負担軽減を」「教室にエアコンを」と、仲間と一緒に運動を進め、議会では毎回欠かさず子育てや教育の充実を求めてきました。

原発のない平和な未来を子どもたちに―原発を動かし、憲法9条を変えようとする政治を変え、くらしや子育てが大事にされる社会をつくるために、がんばる決意です。

安倍政権 いいなりの県政と対決

私の信条 Creed

大国陽介

歩んできた道 Background

結婚。家族を守る父親の自覚に立って

仁美さんと結婚し、今では6児の父親となりました。家庭のあたたかさを実感すると同時に、子育ての大変さや政治の責任を一層感じるようになりました。夢と希望の持てる平和な社会をめざし、毎日の活動にも一層力が入ります。

（夏休み、隠岐・西ノ島町へ家族で旅行）

25歳で市議に議席の重み感じて

2005年、合併後初の市議選に立候補し当選。「若いのに大丈夫か？」との声をよそに奮闘。この間の議員活動には保守系のベテラン議員からも「ようがんばる。さすが共産党だ」との声が。議席の重みを感じながら奮闘する毎日でした。

（初当選当時、古志橋東詰交差点にて）

学生時代のアルバイト粘り強さに定評

学生時代の4年間、ファミレスの厨房でアルバイト。調理の腕と粘り強さには定評がありました。大学卒業後、島根三洋工業（現パナソニックＥＳソーラーシステム製造）で、携帯電話やパソコンなどの最先端の仕事にかかわり、やりがいを感じながら働きました。

（得意のチャーハンを調理中）

明るく元気な少年時代文集に「共産党に入る」

日本共産党員の両親をみて育ち、小学校の卒業文集には「共産党に入って世の中を変える」と書き、先生を驚かせたことも。大学に進み「社会のために何かしたい」と自らの意志で日本共産党に入党しました。

（父知行、兄圭介とともに日御碕の海水浴場にて）

すぐ現場へ 目で見、声をきく

浸食がすすむ外園海岸を調査

2016年1月、砂浜の浸食が進み、対策が求められている出雲市の外園海岸を地元住民とともに現地調査。議会質問でも取り上げて対策を要求しました。

JR三江線、利用者から声を聞く

廃止が報じられたＪＲ三江線（既に廃線）に乗車し、通学や通院で利用する高校生や高齢者から意見を聞き、寄せられた声を議会でも紹介。

地震被害を調査（佐田町）

2018年4月の県西部地震によって土砂崩れが発生し、通行止めになった佐田町の県道を調査。住民から要望を聞き取り、県に対応を要求。

市民と共闘。力合わせ 心一つにいっしょに前へ

戦争法の廃止を求めてデモ行進

安倍政権が強行した憲法違反の安保法制（戦争法）を廃止するための市民集会に参加。「戦争する国づくりはさせない」と市内をパレード。

保育・介護の現場で働くみなさんと県へ申し入れ

保育や介護の現場で働くみなさんと、保育士の処遇改善や障がい児保育の充実、待機児童の解消、介護職場の労働環境の改善などを求めて毎年、県と交渉しています。

保育料引き下げ署名

保育料の軽減を求める署名活動に、子育て中の保護者仲間とともに取り組み出雲市長あてに提出しました。県議会でも子育て支援の充実を粘り強く訴えています。

清潔、ブレない。原発ゼロへ！ 住民の立場でどこまでも

政務活動費申し入れ

ウソの領収書や飲み食いに使用するなど、島根県議会でも政務活動費の不正が相次いで発覚。徹底解明と使途の厳格化を議長に繰り返し要求。

原発ゼロを求めて中国電力へ

中国電力に対し島根原発の稼働中止を求めて申し入れ。原発のすぐ近くにある活断層の危険性や核燃料サイクルの破たんを指摘。「原発ゼロ」の実現に向け全力で取り組みます。

毎議会で一度も欠かすことなく質問に立つ